

東日本大震災における 津波避難の社会心理学的考察

計画マネジメント皆川研究室

学生氏名 中村遼太

指導教員 皆川勝

研究背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの人的被害が生まれた。



- ・防災ハザードマップ、津波浸水予測図への過信
- ・避難マニュアルの曖昧さ
- ・避難訓練の惰行
- ・一旦避難した後に家族を救助に行く



人間の心理を考慮した避難を行うことで「減災」に繋げることができる

<東日本大震災の概要>

日時：平成23年3月11日

(午後2時46分)

マグニチュード：9.0

死者：15,883人

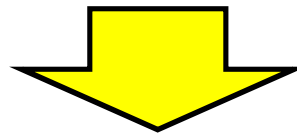
行方不明者：8,069人



東日本大震災時の岩手県釜石市「宝来館」

研究目的

東日本大震災の被災状況から、
津波避難時に住民の心理が強く関わっている事例について、
当事者の関係性を図や表に表す。



社会心理学の観点から、関係性について考察し、
改善策と制度設計を行う



東日本大震災被災状況

東日本大震災での被害

県名	死者数	行方不明者数	死者+行方不明者数	人口	死亡率
北海道	1	0	1	5,507,456	0.00%
青森県	3	1	4	1,373,164	0.00%
岩手県	3673	951	4624	1,330,530	0.34%
宮城県	9536	1302	10838	2,347,975	0.46%
山形県	2	0	2	1,168,789	0.00%
福島県	1606	211	1817	2,028,752	0.09%
東京都	7	0	7	13,161,751	0.00%
茨城県	24	1	25	2,968,865	0.00%
栃木県	4	0	4	2,007,014	0.00%
群馬県	1	0	1	2,008,170	0.00%
千葉県	21	2	23	6,217,119	0.00%
神奈川県	4	0	4	9,049,500	0.00%

死者+行方不明者数/人口
= **死亡率**

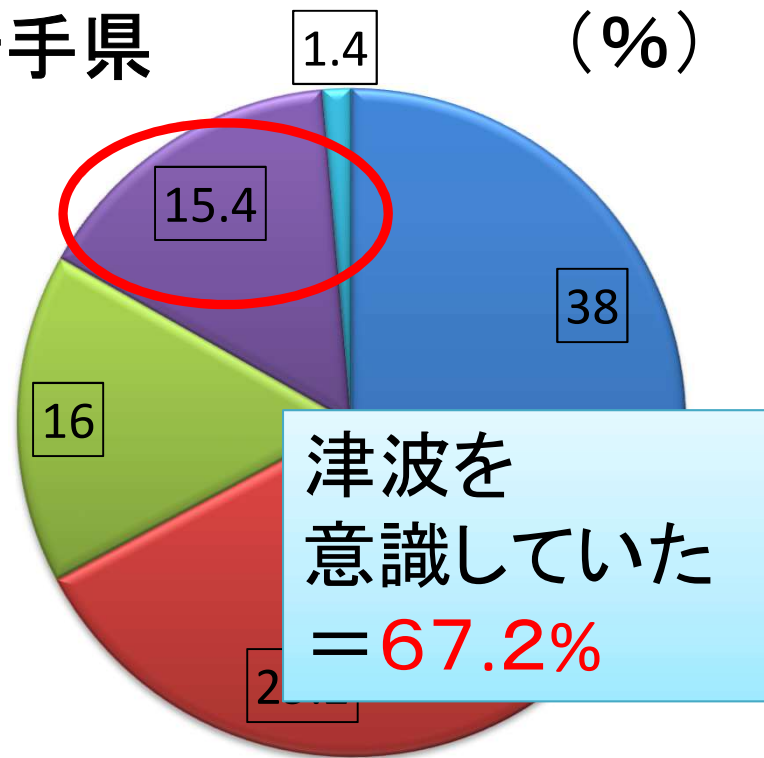
宮城県 = 0.46%
岩手県 = 0.34%

死亡率の一番高い
宮城県で発生した事象を
対象とする

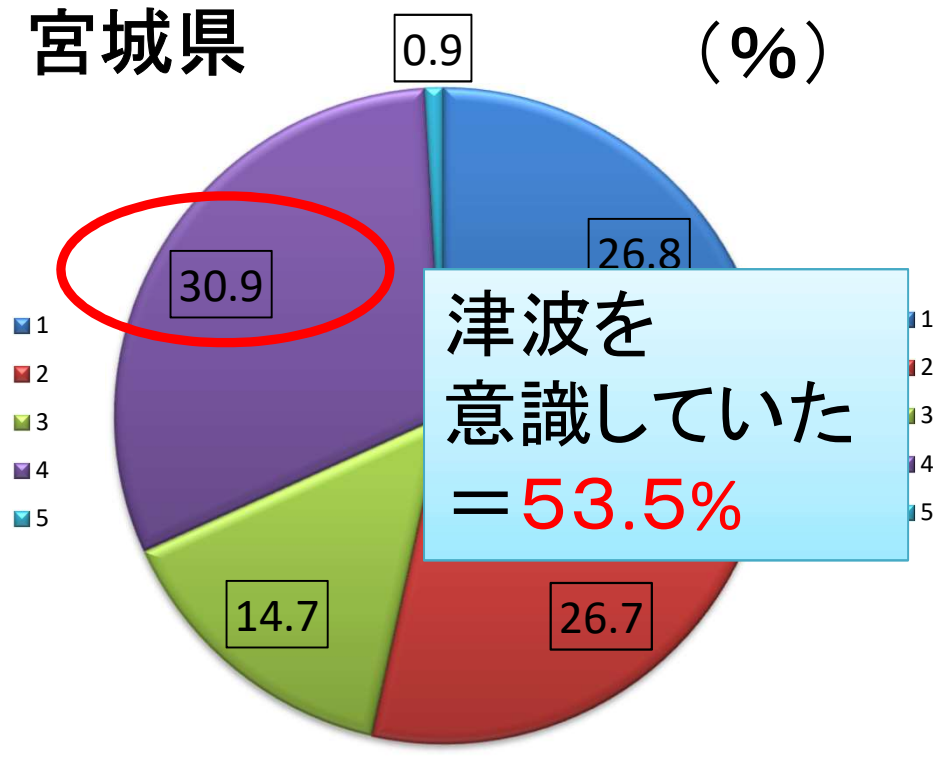
岩手県沿岸北部地震(2008年7月24日)
震源: 岩手県沿岸北部
最大震度: 震度6弱

宮城県 < 岩手県
経験不足

岩手県 (%)



宮城県 (%)



- 津波が必ず来る
- 津波が来るかもしれない
- 津波は来ないだろう

- 津波のことは、ほとんど考えていなかった
- 覚えていない、わからない

心理学

- 生理心理学・・・人間が単体である時の心理
- 社会心理学・・・人間が集団である時の心理

欲求段階説
(マズロー)

欲求理論
(マレー)

複雑な関係性を表す上で
欲求理論は人間の本能、
欲求に基づく行動を検討
できるため有効である

< Murrayの欲求理論 >

- ・人間には5つの本能がある
- ・人間の行動は欲求を満足させようとするプロセスである

生存欲求本能
生き延びたいという
動物的本能

知的欲求
学びたいとする本能

集団欲求本能
仲間になりたいとする
本能

統一・一貫性本能
統一・一貫性のあるものを好む
本能
(他者の意見を受け入れ難い)

自己保存欲求
自分を守ろうとすると本能
(経験や知識により過剰に反応
する場合も！)

Murrayの欲求理論

- 達成**: 困難を効果的・効率的に成し遂げる欲求
- 顕示**: 自己演出・扇動を行う, 自己を正当化する欲求
- 支配**: 他人を統率する欲求
- 自律**: 他人の影響・支配に抵抗し, 独立する欲求
- 親和**: 他人と仲良くなる欲求
- 養護**: 他人を養い、助け、または保護しようとする欲求
- 追従**: 優位者に従属することでアイデンティティを守る欲求

津波は来ないであろうから
避難する必要を感じない



石巻市日和幼稚園

迷いが避難行動を遅らせる



石巻市大川小学校

避難行動阻害要因の区分	番号	避難行動阻害要因
津波は来ないであろうから避難する必要を感じない	1	この高さまでは津波がきたことがないという知識が避難行動を阻害する。
	2	被害が小さいことや無かったという知識が避難行動を阻害する。
	3	あの時は、こうだったという被災経験が避難行動を阻害する。
	5	低い危機感や自分は大丈夫、あるいは自分ならば逃げられるという意識が避難行動を阻害する。
	7	高台や高いビルなどにいるという安心感が避難行動を阻害する。
迷いが避難行動を遅らせる	10	避難場所が事前に決められていないと迷いが生じ、迷いが素早い避難行動を阻害する。
	11	避難が必要であるという情報が得られるまで待機するという判断が避難行動を阻害する。
	12	遠い・険しい・狭い・危険などの避難経路や避難場所の状態が避難行動を阻害する。
	13	長時間の避難が辛いような避難場所の環境が避難行動を阻害する。
	15	怪我をさせたくない、辛い思いをさせたくないという思いやりが避難行動を阻害する。

津波は来ないであろうから
避難する必要を感じない

石巻市日和幼稚園 における津波被害

背景

- 日和幼稚園は指定避難場所とされていなかったが、幼稚園より標高の低い場所にある門脇小学校は指定避難場所とされていた。また、結果的に日和幼稚園・門脇小学校共に津波は到達しなかった。
- 学校保健安全法・震災応急対策マニュアルにおいて、「地震発生時、指定職員はラジオ等により情報収集に努める」ことが義務である。
- 幼稚園は、園児をバスによって送迎していた。

出来事

- 園児らが乗っていたバスが津波に流され添乗員1名、園児4名が犠牲となった。
- 地震発生後、園児を乗せ出発したバスが渋滞に巻き込まれ、津波に流された。また、送迎バスは、幼稚園よりも海側に住む園児を送るため、海側へ出発していた。
- 通常は幼稚園より海側、山側に住む園児を2台のバスで各ルート毎に送迎するが、この日は、1台のバスで園児を送迎した。
- 海側の園児を、自宅に送り届けた後に渋滞に巻き込まれ津波に流されたため、死亡した園児は全員幼稚園より山側に住む園児であった。

日時	行動	関連情報	関係者	志向性	社会的欲求	本能	バイアス等	リスク
平成23年3月9日		震災二日前に、津波警報が発令されたが、津波は到達しなかった。また津波の被災経験もなかった。職員はマニュアル確認など実施せず。	全員	集団	秩序、支配・追従	統一・一貫性	正常性バイアス 同調性バイアス 同化性バイアス マイナスの学習効果	マニュアルを周知することによる時間とコスト
平成23年3月11日 14時46分頃	送迎バスAは、地震発生時、海側居住園児を送り、園に帰る途中、停車し、ラジオをつけ、揺れが収まったのち、園に戻った。	運転手Aは運送会社運転手としての勤務で避難訓練などの経験があった。	運転手A	知性	自律	生存、知的	プラスの学習効果 適正な周辺ルート処理	無し
同月同日 15時過ぎ頃	園長の指示により、海側居住園児、陸側居住園児を乗せて送迎バスBが園を出発する。海側居住園児を自宅に届ける。	津波警報が発令され、多くの住民はそのことを知っていたにもかかわらず、園長は、ラジオその他で情報収集を行わなかった。 幼稚園の地震マニュアルでは、園に待機させ、「保護者のお迎えを待って引き渡す」となっていた。平常時は、海側居住園児、陸側居住園児を別々に送迎	園長	集団、達成、知性(-)	支配、自律(-)	統一・一貫性、生存欲求不要	正常性バイアス 確認バイアス 不適正な中心ルート処理	津波襲来を受け入れることによる責任
			保護者A	知性、達成	自律、養護		愛他心、集団凝集性	子供を迎えに行くまでの被災の可能性
			運転手B	集団、達成	追従、他者認知	自己保存	同調性バイアス 同化性バイアス	幼稚園との契約関係
同月同日 15時過ぎ頃	送迎バスAが他の園児を乗せて再度送迎に出発したが、ラジオでの大津波警報や渋滞状況から、高台避難すべきと判断し、園へ引き返した。		運転手A	知性	自律	生存、知的		幼稚園との契約関係
同月同日 15時2分頃		園長は、大津波警報を行政無線等で認識したが、両バスに高台避難等の指示を出さなかった。他の保育士はそれを認識していなかったとしているが、裁判では不自然であるとされた。	園長	集団、達成、知性(-)	支配、達成、自律(-)	統一・一貫性、生存欲求不要	正常性バイアス 確認バイアス 不適正な中心ルート処理	指示を出すことによる責任
			保育士全員	集団、達成	追従、他者認知、顕示	統一・一貫性、生存欲求不要		園長との信頼関係
同月同日	園児の自宅が不在であったことや、保護者からの門脇小学校へ避難しているとの情報により、送迎バスBは門脇小学校へ向かう。園からやや海側に位置する門脇小学校にて待機する		運転手B	集団、達成	追従、他者認知	自己保存	同調性バイアス	無し
同月同日 15時10分過ぎ	園長より保育士Aは、バスBを戻すよう指示を受ける。その際、大津波警報の件は園長から保育士Aへは伝えられなかった。園長の指示を受けた保育士Aが門脇小学校へ徒歩で移動し、「バスを戻せ」と運転手Bに指示する。	保育士Aは日和山を通ったため、多くの住民生徒児童が日和山へ避難していることを知ったが、運転手Bには伝えなかった。	園長	集団、達成、知性(-)	支配、達成、自律(-)	統一・一貫性、生存欲求不要	正常性バイアス 確認バイアス 不適正な中心ルート処理	学校保健安全法を侵す可能性
			保育士A	集団、達成	追従、支配、他者認知	自己保存、生存欲求不要	同調性バイアス	園長との信頼関係
同月同日 15時45分頃まで	保育士Aから運転手Bは「園に車で戻るか」を尋ねられ、運転手Bは「できる」と回答。バスBは出発したが、渋滞に巻き込まれ、津波に被災。添乗員1名、園児4名が死亡。運転手Bはバスから押し出され、一命をとりとめた。	一部の保護者は、危険を訴えたが園長から「大丈夫」と言われたので、自分自身で渋滞に巻き込まれていたバスまで迎えに行き園児を引き取った。その後、津波がバスを襲った。	運転手B	集団、達成	追従、他者認知	自己保存	同調性バイアス	津波避難マニュアルの曖昧さから来る津波指示を出すことによる責任
			保育士A	集団、知性、達成	追従、自律、他者認知	知的		園長との信頼関係
			保護者A	知性、達成	自律、養護	生存	愛他心、集団凝集性	バスが停車している海側へ向かうことによる被災の危険性
同月同日 16時頃以降から 3月14日	津波後に火災が発生した。火災発生前まで生存の可能性あり。	3月14日に焼け焦げた送迎バスBと、車内の亡き園児5名が発見された。添乗員は行方不明。	園長	達成、知性(-)	他者認知、自律(-)	統一・一貫性		無し
			保護者B	知性、達成	自律、養護		愛他心、集団凝集性	無し

- バスは、一時門脇小学校に待機したが、保育士からの「バスを戻せ」という指示により再び出発した。その指示は、園長が伝えたものであった。
- 門脇小学校の裏には、日和山があり、門脇小学校の生徒の大半はそこに避難していた。

保育士

徒歩で日和山を通り門脇小学校に一時待機しているバスに園長からの指示を伝えた。



多くの住民が日和山に避難していたことを知っていた

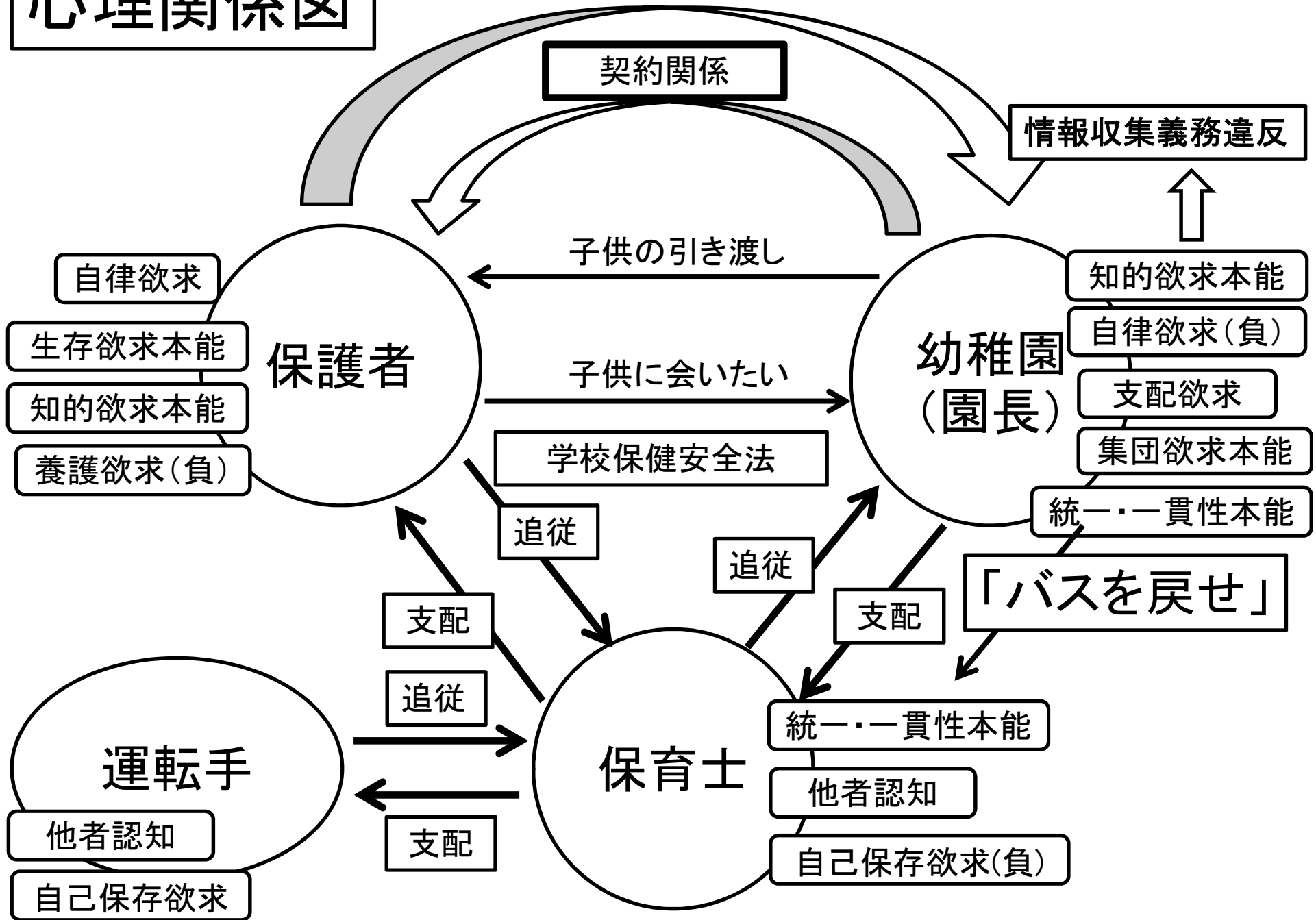
バスに園長からの指示を伝えた後、日和山に避難した。



バスの経路

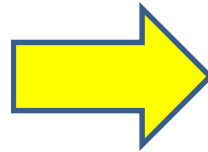
	社会的欲求	本能
[園長]	支配, 自律, 達成(負)	生存欲求, 集団欲求, 統一・一貫性
[保育士]	支配, 自律, 追従	生存欲求, 知的欲求, 自己保存(負)
[保護者]	追従, 養護(負)	生存欲求, 知的欲求,

心理関係図



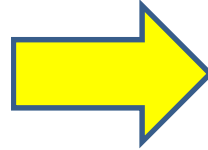
日和幼稚園津波被害の 社会心理学的原因

1,
(保育士)
自己保存欲求(負)



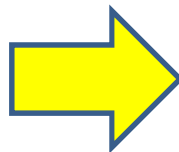
多くの住民が日和山に避難していることを知りながら、バスの運転手に情報共有しなかった。

2,
(園長)
知的欲求(欠)



ラジオ等での情報収集は容易であったにも関わらず津波の情報、また近隣住民の情報を入手せず、バスに指示を送った。

3,
東日本大震災の2日前に
発生した地震の際は津波
が発生しなかった



これまでの経験でも、石巻市の市街地まで津波が到達することがなかったため、津波を意識していなかった。

→正常性バイアス

結論

避難マニュアルの整備, 正確な防災ハザードマップの作成などの事前防災を行うことにより, 避難する人々に働くマイナスの欲求と本能を打ち消すことができる

事前防災の徹底が減災に直接繋げることができる

参考文献

(1) 内閣府防災

<http://www.bousai.go.jp/>, 2012

(2) 河北新報

2011年9月11日発行

(3) 判例秘書

仙台地方裁判所/2013年第1274号

(4) 児玉恭子: 我が国の建設マネジメントの課題に関する社会心理学的な考察, 2011

(5) 三枝大祐: 極低頻度の災害に対する避難行動の社会心理学的な検討, 2012

ご清聴ありがとうございました

迷いが避難行動を遅らせる

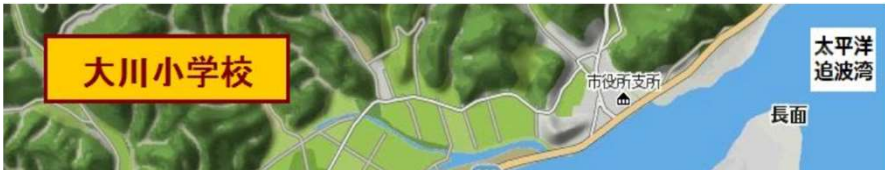
石巻市大川小学校 における津波被害

背景

- 石巻市が定めた防災ハザードマップ、津波浸水予測図では、大川小学校は津波想定区域外であった。
- 十分な避難マニュアルは、作成されていなかった。
- 学校には裏山があり、裏山は学校よりはるかに高い位置にあった。

出来事

- 全校児童の7割に当たる74人が死亡、行方不明となった。
- 地震発生から大津波警報が発令されるまでの間、学校教諭から避難する指示はなく、教頭は保護者と議論を続けていた。
- 大津波警報発令後、避難を開始したが、裏山ではなく、学校から200m離れた三角地帯のたもとへ向かった。
- 上記の生徒・教員・住民は、津波に流されてしまったが、裏山に避難した生徒は全員無事であった。
- 当時、学校前にはバスが止まっていたが、バスによって避難することは無く歩いて避難することを選択した。



大川小学校周辺マップ



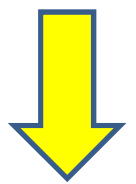
津波浸水予測図



- 現場に待機していたスクールバスの定員は45人
- 無理にでも詰め込めば、全員が避難することができた

バスの運転手

午後3時10分ごろ、
バス会社から避難を呼びかけられた



女川町に大津波が襲来

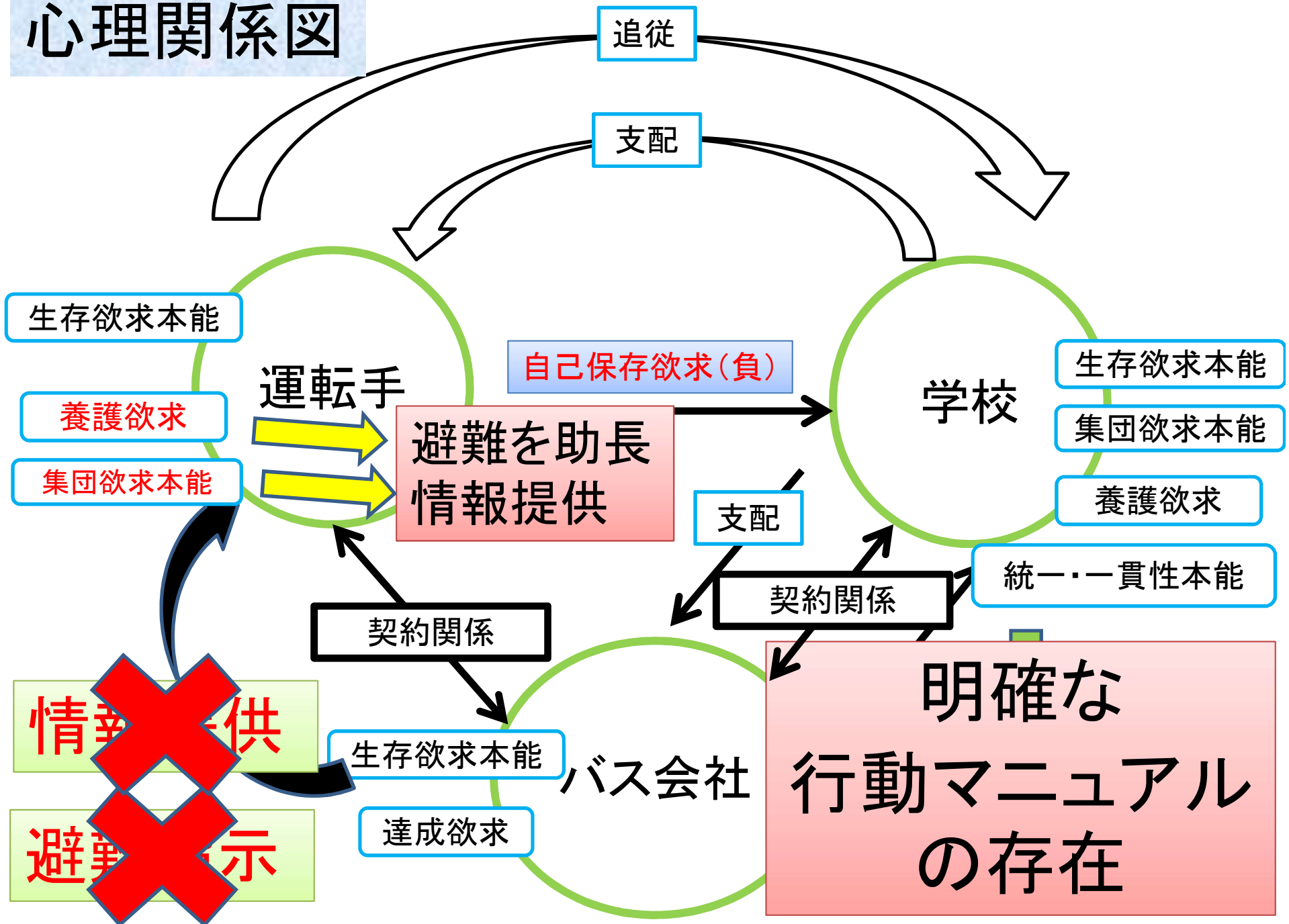
「子供たちが出てこないんだ」と言って
避難することは無かった



河北新報(2011年9月11日発行)

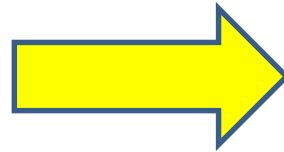
	社会的欲求	本能
[学校]	支配, 自律, 養護	生存欲求, 集団欲求, 統一・一貫性
[バス会社]	自律, 達成, 追従	知的欲求, 生存欲求
[バスの運転手]	追従 → (学校 > バス会社) 自己保存(負)	生存欲求

心理関係図



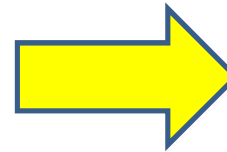
大川小学校津波被害の 社会心理学的原因

1,
(運転手) (学校)
生存欲求 < 支配・追従



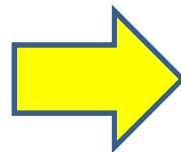
津波が迫っている情報を得ているにもかかわらず待機。

2,
(運転手 → 学校)
自己保存欲求 > 契約関係



取引先(学校)の意見を尊重し、自分の立場を守った。
情報共有を行わなかった。

3,
曖昧なマニュアルのみしか存在しておらず、周知されていなかった

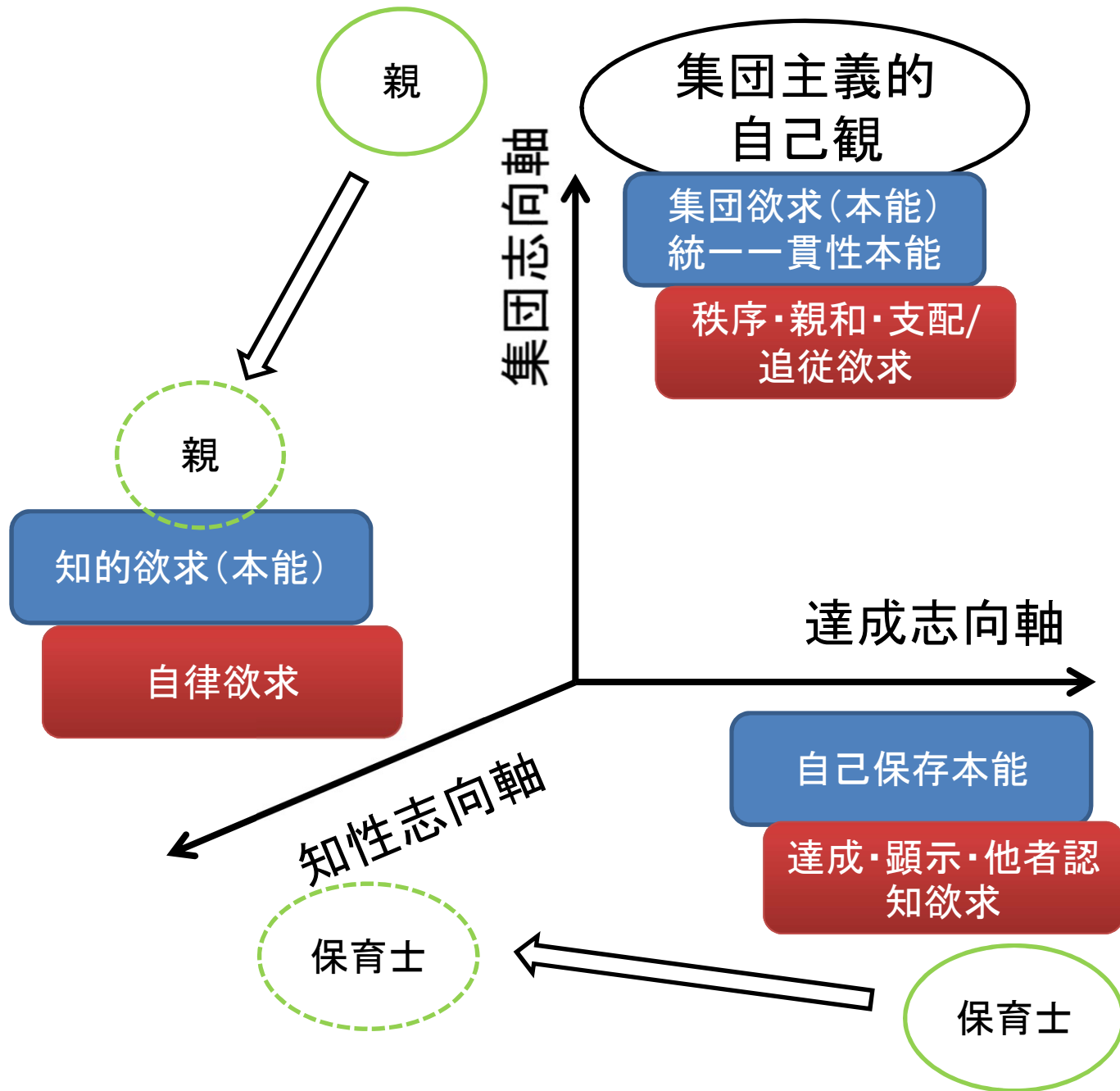


地震発生後、教頭が保護者と議論。
迅速な対応をとることができなかった。

東松島市仙石線(2)	乗客と乗務員	被災なし	土地動ある乗客が難入道を制止し、停車中の高台にとどまり、被災なし。	マニュアルによらず臨機応変	マニュアルと臨機応変
釜石市	気象庁, 釜石市	警報	地震発生3分後に津波高さ3m予報を出し、27分後に6m、44分後に10mと訂正。	予報の迅速性を優先して精度の低い予報を出した。	予報の精度
仙台平野	産業技術総合研究所、	津波到達域	869年の貞観地震では仙台平野の3、4mまで到達していた。	過去の事例からの学習効果が継続せず	想定の妥当性
宮古市姉吉地区	地区住民	犠牲者1名	12世帯40名が先祖の教訓を守り、海拔60mに集落作り、全員高台に避難	先祖の教訓を守った	千年の教訓
東松島市宮戸島	地区住民	犠牲者数名	貞観地震で多大な犠牲。標高10mに「ここより下は危険」と石碑あり、石碑の手前で津波は止まった。島民約千人は石碑より高台に避難した。	先祖の教訓を守った	千年の教訓
仙台市若林地区	地域住民, 仙台市, NEXCO東	署名	指定避難所である東六郷小学校は危険との専門家の意見にしたがい、仙台東有料道路を指定避難所に指定する署名活動は無視された。小学校二回までの津波で多くの犠牲が出たが、仙台東道路に避難した300名が助かった。	指定避難所の見直しを進めるべきだった。	想定見直し
岩手県と宮城県	住民	アンケート	岩手県: 高台に逃げる85%, 海岸に住まない3%, 高い建物を造る3%。宮城県: 高台に逃げる57%, 海岸に住まない21%, 高い建物を造る11%。岩手県は高台に逃げるが徹底, 宮城県は逃げずに済ませたい。	過去の経験による意識の差	教育効果
南三陸町	行政	想定	チリ地震津波を想定した避難所, 避難ビル, 避難経路で, 明治津波を想定せず。	想定は妥当であったか	想定見直し
南三陸町	防災対策庁舎危険管理課職員	死亡	庁舎二階放送室で最後まで放送、津波に飲まれた。	防災放送室は安全な場所にあるべき	想定見直し
石巻市北上総合支所	所員	支所建物で57名中54名死亡	所員は高台への避難を呼びかけ続けたが、指定避難所になっている支所建物に避難した住民のほとんどが犠牲となった。	指定避難所は必ずしも安全ではなかった。	想定見直し
大槌町	消防団員	5名中4名が犠牲	潮位観測で防波堤に。寝たきり老人を2階へ上げる作業をしていた4名が死亡。	避難を助けた人々が被災	避難補助者の被災
岩泉町	消防団員	犠牲者なし	水門を閉めようとして防潮堤操作室に向かった。裏山に駆け込んで間一髪助かる。	減災のため働いた人が被災	避難補助者の被災
山田町	消防団員	7名中3名死亡	海岸堤防の水門を閉めたが、その後津波に巻き込まれた。	減災のため働いた人が被災	避難補助者の被災

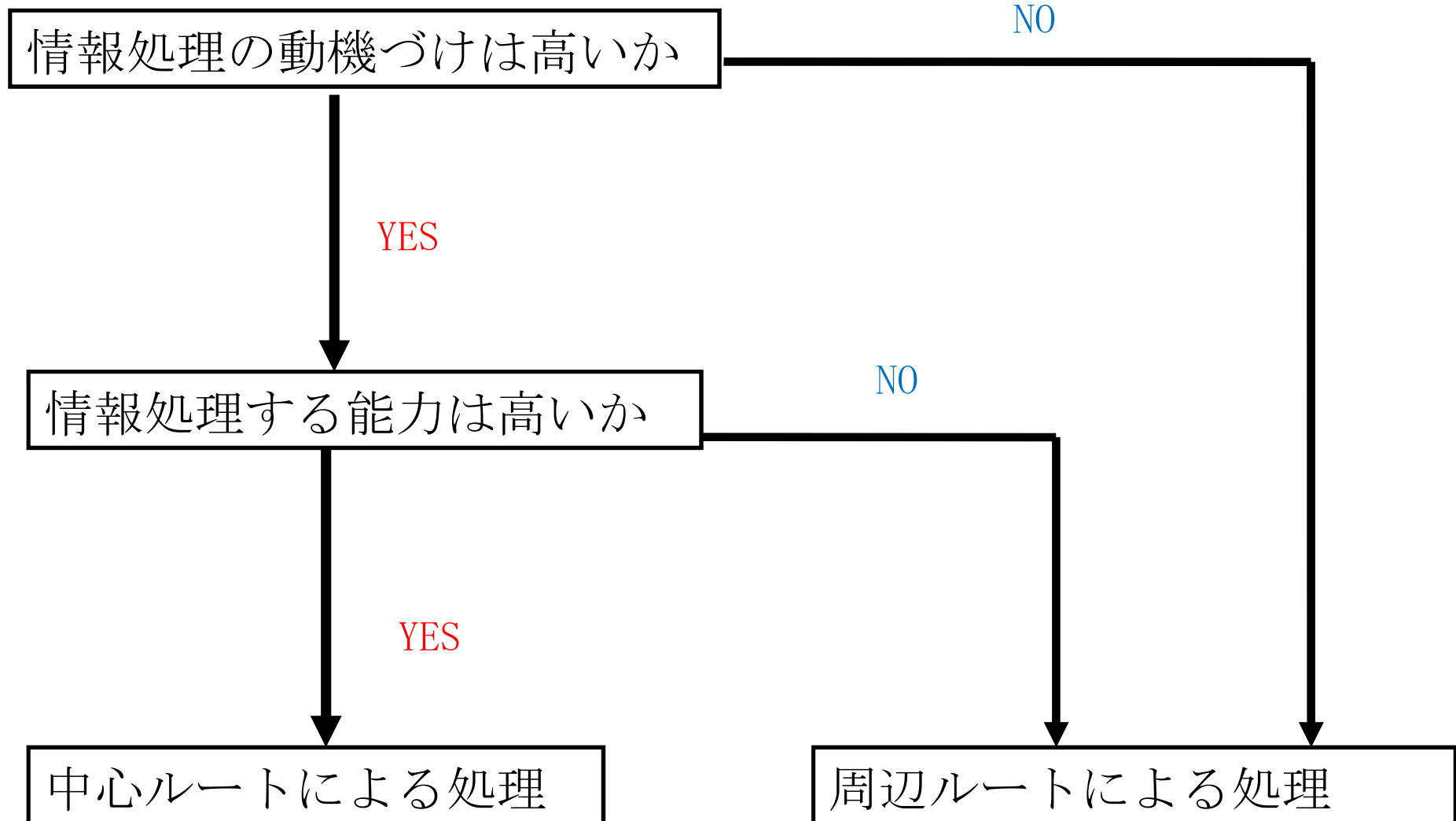
石巻市大川小学校	教員12名と児童108名	教員10名と児童74名が死亡	校庭で整列点呼待機した後、裏山でなく新北上大橋たもとの小高い「三角地帯」に避難して津波に襲われる。	避難の遅れ、高台への避難の選択肢を選ばず。	判断
山田町船越小学校	教員と児童176名	被災なし	小学校自体が指定避難場所であったが、さらに40m高い丘へ避難して被災なし。	指定避難場所の安全より、より高い場所が安全と考えた。	判断
陸前高田市県立高田高校	テニス部員と顧問	被災なし	指定避難場所の体育館は被災して犠牲多数。テニス部は顧問の判断でより高台へ避難して無事。	指定避難場所の安全より、より高い場所が安全と考えた。	判断
宮城県	宮城県内の小中学校	学校から親と自宅に向かった生徒の被災	大川小学校を除き、学校に残った生徒の大半は生存、親と自宅に向かった生徒に多くの犠牲。	自宅に帰るのは危険である。親が学校から生徒を引き取るのは危険。	教育機関と親子
釜石市	釜石市の小中学校	生存率は99.8%、死亡は5名。	釜石市の教育徹底により、小学生1927名、中学生999名のうち死亡者は5名。釜石東中学、鶯住居保育園他。	防災教育の重要性。「釜石の奇跡」と呼ばれる。	教育機関と親子
石巻市の日和幼稚園	送迎バス内の園児	園児12名のうち5名が死亡	送迎バスは幼稚園から低地へ向かうなどして、自宅へ届ける行動。途中から幼稚園に戻ろうとしたが間に合わず。マニュアルでは保護者の迎えを待つか、迎えが遅れる場合には高台の学校へ避難することになっていたが守られなかった。	親に引き渡すマニュアルを守るべきだったか。津波が来るのに低地に向かったバス。	教育機関と親子
宮古市田老地区	一般住民	防潮堤を信じて避難せず被災	田老地区の住民を守ったのは防潮堤ではなく、高台避難だった。	ハードウェアによる防災には限界	ハードの限界、想定盲信
岩手県普代村	一般住民	被災なし	先人の教え通り15mより高い15.5mの防潮堤と水門構築。	ハードウェアが機能	ハードの限界
釜石市	一般住民	防潮堤の破壊	世界最深63mの防潮堤は津波の到達を6秒遅らせたが、破壊。釜石市の犠牲者の86.6%がハザードマップの津波到達想定外の区域で被災。	ハードウェアに一定の効果あり。	ハードの限界、想定盲信
避難所	避難所	陸前高田、南三陸、女川で多く被災	陸前高田で68か所中35か所、南三陸市で78か所中31か所、女川町で25か所中の12か所が津波で流出	ハザードマップの想定は適切だったか、信じてよかったか。	想定盲信
名取市	一般住民	ハザードマップを越えた津波到達で避難せず被災	ハザードマップで示されていた海岸から1kmの浸水地域を越えて、海岸から6kmまで津波到達。30%から40%の住民は避難せず被災。貞観地震では3、4kmまで到達。	ハザードマップの想定は適切だったか、信じてよかったか。	想定盲信
茨城県大洗町	一般住民	命令調の避難呼びかけに応じ犠牲なし	2時間半の丁寧語での避難呼びかけに応じない住民に対して、命令口調で「高台に避難せよ！」と呼びかけた。	避難呼びかけの在り方、マニュアルとの関連性。	マニュアルと臨機応変
東松島市仙石線	乗客と乗務員	数人の乗客が避難所で死亡	災害で緊急停止した場合のマニュアル通り、最寄りの指定避難所に誘導して被災	マニュアルに従うことの課題、あるいはマニュアルの作り方	マニュアルと臨機応変

避難行動阻害要因の区分	番号	避難行動阻害要因
津波は来ないであろうから避難する必要を感じない	1	この高さまでは津波がきたことがないという知識が避難行動を阻害する。
	2	被害が小さいことや無かったという知識が避難行動を阻害する。
	3	あの時は、こうだったという被災経験が避難行動を阻害する。
	4	指定された避難場所なら安全だろうという思い込みが2次避難を阻害する。
	5	低い危機感や自分は大丈夫、あるいは自分ならば逃げられるという意識が避難行動を阻害する。
	6	防潮堤があるという安心感が避難行動を阻害する。
	7	高台や高いビルなどにいるという安心感が避難行動を阻害する。
	8	海が見えない環境が危機感の欠如となり、避難行動を阻害する。
	9	テレビ・ラジオ・防災無線・広報車などによる津波情報の発信と空振りの連続が避難行動を阻害する。
迷いが避難行動を遅らせる	10	避難場所が事前に決められていないと迷いが生じ、迷いが素早い避難行動を阻害する。
	11	避難が必要であるという情報が得られるまで待機するという判断が避難行動を阻害する。
	12	遠い・険しい・狭い・危険などの避難経路や避難場所の状態が避難行動を阻害する。
	13	長時間の避難が辛いような避難場所の環境が避難行動を阻害する。
	14	雨・風・雪、夜間、寒さなどの厳しい自然環境が避難行動を阻害する。
	15	怪我をさせたくない、辛い思いをさせたくないという思いやりが避難行動を阻害する。
	16	通常活動の中止に伴う損害と責任問題が避難行動を阻害する。
	17	避難したことによって生じる責任問題が避難行動を阻害する。
避難前の作業により避難が遅れる	18	迎えに行く、待つなどの行動が素早い避難行動を阻害する。
	19	避難前の時間のかかる確認作業、手続き、行動手順が避難行動を阻害する。
	20	避難前の雑務(外部との対応など)が避難行動を阻害する。
その他	21	家族の代表者や年配者あるいは上司や管理者の「津波は来ない」という判断が避難行動を阻害する。
	22	近所の人「津波は来ない」という言動や避難していないという事実が避難行動を阻害する。
	23	津波を見たいという好奇心が避難行動を阻害する。
	24	緩慢な避難や身勝手な行動が防災関係者や一般避難者の避難行動を阻害する。
	25	避難困難者のあきらめや消極的な考えが、介護者や協力者の避難行動を阻害する。
	26	避難を渋る人が周辺の人や関係者の避難行動を阻害する。



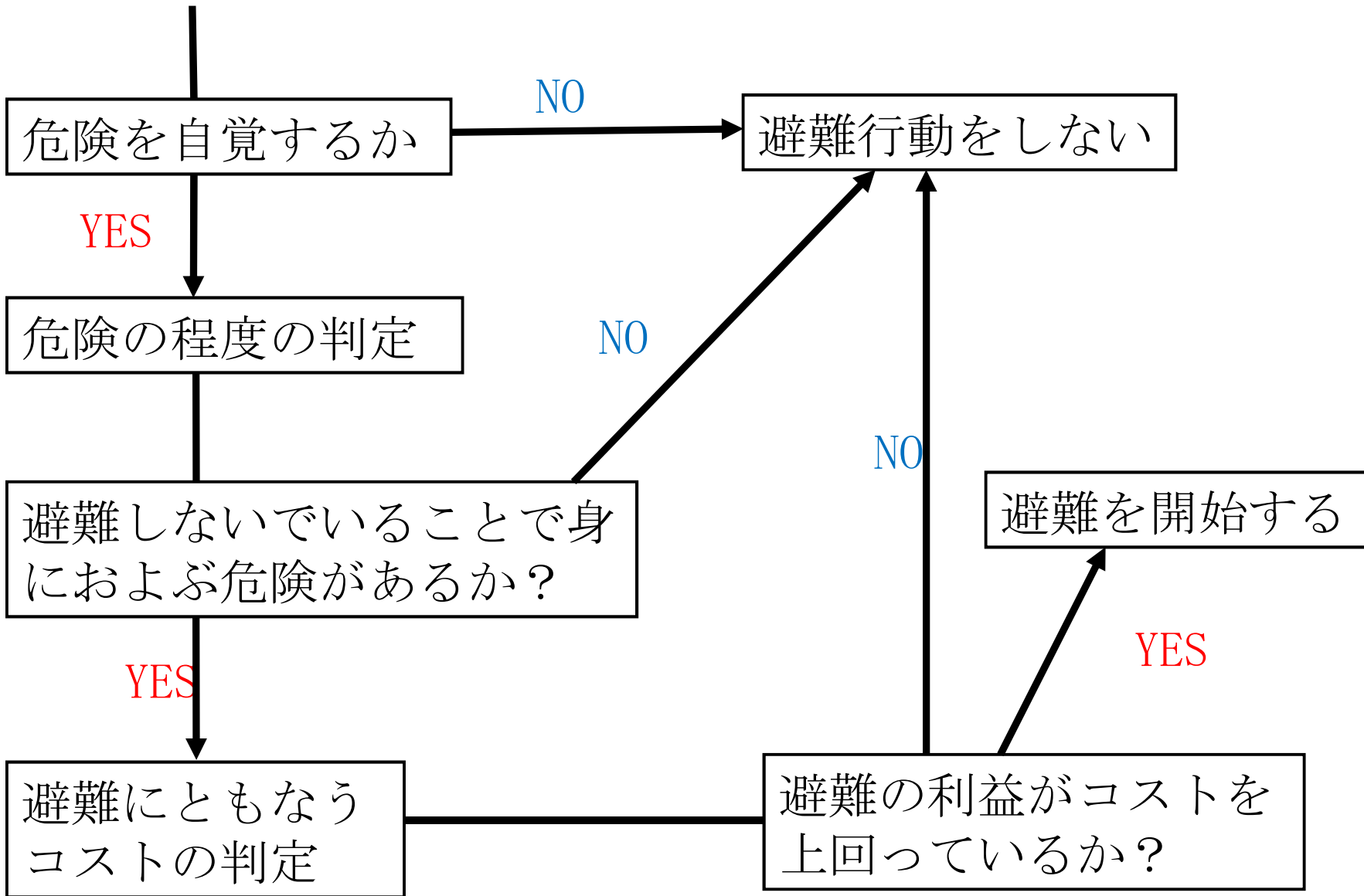
二重過程理論

社会心理学の領域における情報処理方法

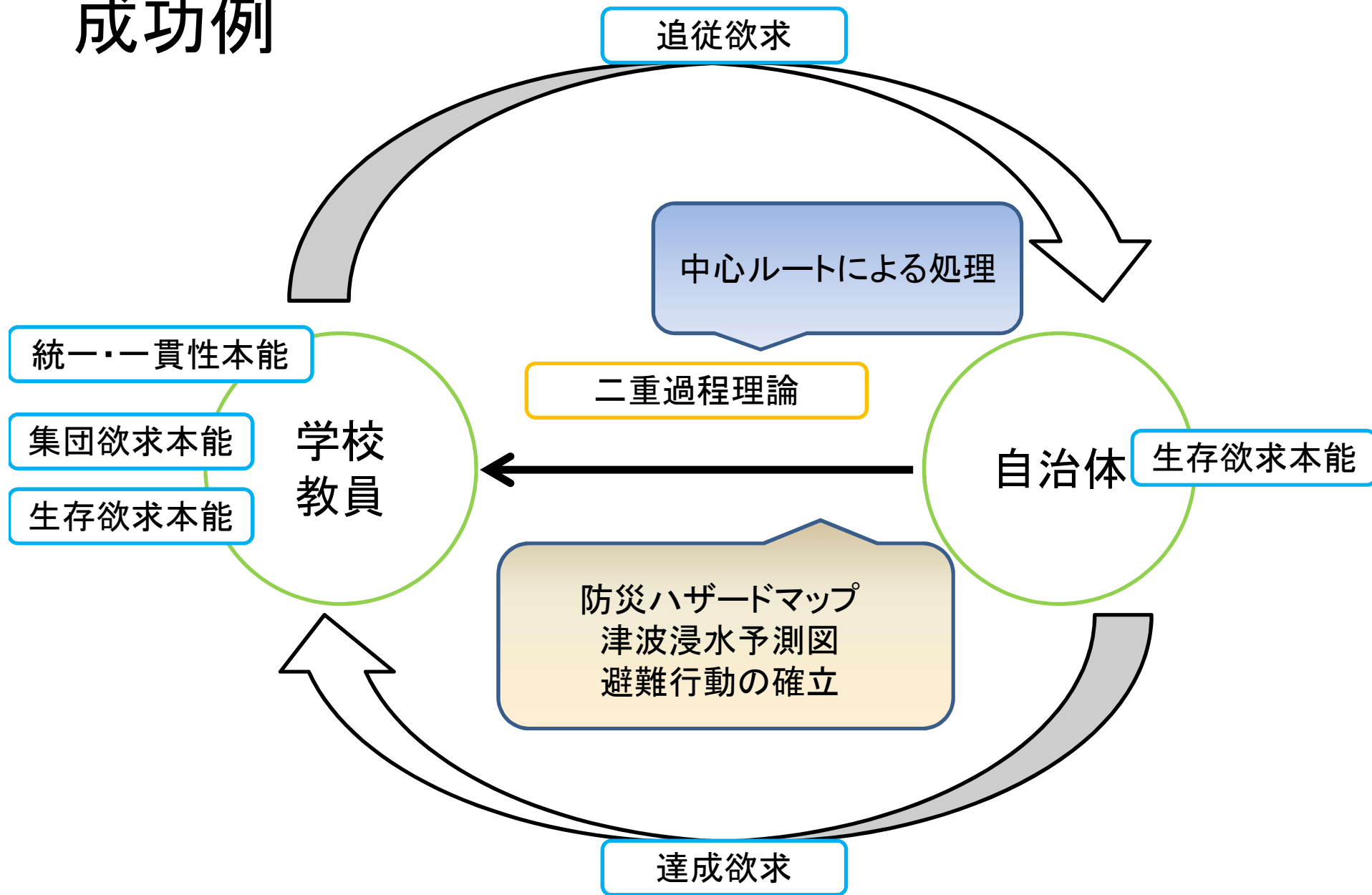


危険を知らせる状況（情報）を知覚する

私達は一瞬のうちに、避難行動の費用対効果を計算している



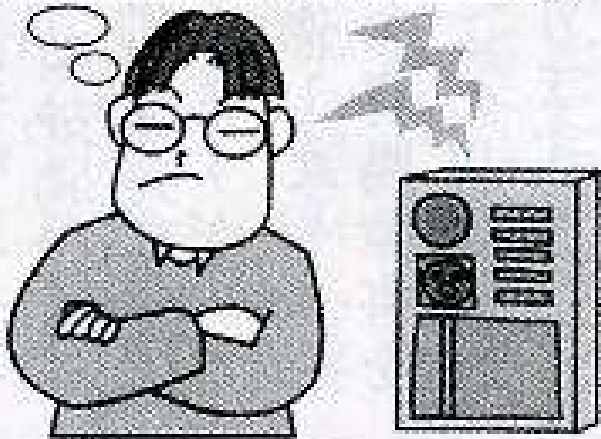
成功例



正常性バイアスとは・・・？

異常を正常の範囲内のことと捉えてしまう錯誤。日常に起きる多くのストレスに対し、心理的安定を保つために働く機能である。

きっと、誤作動。
いや、訓練かな。



人は予期せぬ異常や危険への感度を低下させている。

小さな異常は無視し、大きな異常もその程度減じて安心を得ようとする。

⇒人の避難を遅らせる